

問題⑦:昭和12年(1937)4月29日と同年6月28日に板橋区内で現存する最も古い公園と2番目に古い公園が相次いで開園しました。それぞれ何という公園でしょうか？

答え⑦: 板谷公園(昭和12年(1937)4月29日開園)と常盤台公園(同年6月28日開園)です。

板谷公園は区内で2番目に開園、現存する区内の公園では最も歴史のある公園です。小樽を基盤に海運業を営み板谷商船を設立した板谷宮吉氏が、大規模住宅地・上御代の台の造成に着手、区画整理に際して土地を公園用地として東京市に無償提供しました。板谷公園の名称は板谷宮吉氏の名前に由来します。板谷公園には当初、野球場がありましたが、面積が狭く、しばしば周辺に被害を与えているとして、昭和17年(1942)5月に野球場としての使用休止が決まりました。なお、現在も開園時の名称である「東京市板谷公園」の銘板が使われています。【写真1・写真2】

そのほぼ2ヶ月後に開園したのが、常盤台公園です。同公園は常盤台住宅地の中に設けられました。同住宅地の土地は、大正11年(1922)に東武鉄道の東上線と伊勢崎線を接続する西板線(西新井大師～上板橋)が計画された後、貨物の操車場予定地として確保されました。しかし、西板線計画は昭和7年(1932)に取り消され、当該地域は住宅地として開発されます。昭和10年(1935)10月には武蔵常盤駅(現在のときわ台駅)が開業、常盤台住宅地はその翌年に分譲が始まりました。そして、昭和12年(1937)に常盤台公園ができたのです。【写真3】

ところで、区内最初の公園は、現在の氷川町に造られた氷川公園(板橋氷川公園)です。昭和11年(1936)1月20日に開園しました。氷川神社の宮司・氏子からの境内地無償貸与により、境内に隣接して造られました。同公園は昭和25年(1950)に廃園になりました。【写真4】

昭和10年代に入って板橋区域に相次いで公園が造られましたが、それは以上のように、板橋の都市化・宅地化と密接に関係していました。

板谷公園や常盤台公園などの小規模な公園は、昭和25年(1950)10月に東京都から各区へ移管されて、区立公園となりました。

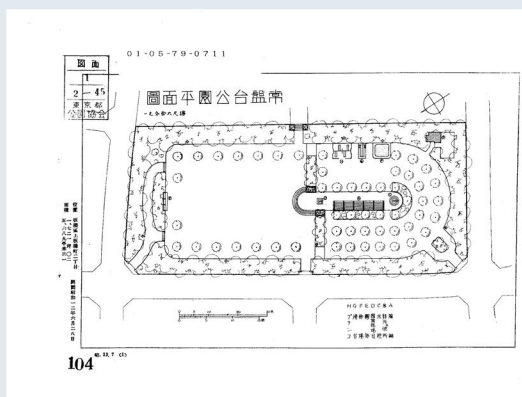
【写真2】【写真3】【写真4】の各公園の図面は、公益財団法人東京都公園協会の所蔵資料です。



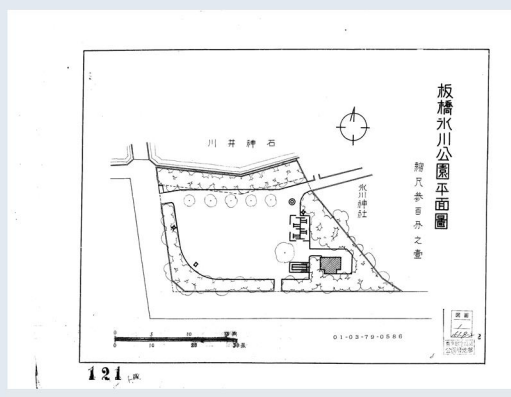
【写真1】板谷公園(現在)



【写真2】板谷公園平面図(昭和13年)



【写真3】常盤台公園平面図(昭和13年)



【写真4】板橋氷川公園平面図(昭和11年)